

米国で「日本社会・文化教育のあり方」に関するセミナーを開催 経済広報センター社会科教師招聘事業

日 程： 2017年11月17日(金)
場 所： 米国 サンフランシスコ
於： 全米社会科協議会（NCSS）年次総会

経済広報センターでは、日米相互理解促進の観点から、米国・カナダの中学・高校の教員を対象とした招聘事業を実施し、日本の教員・生徒との交流や企業訪問等の機会を提供している。1980年の第1回以降、参加した教員は約700名（カナダ60名含む）に上り、今年も6月末に、米国から9名、カナダから1名の計10名が来日した。

同センターはこの招聘事業の一環として、全米社会科協議会（NCSS）年次総会において、現地の中高生に対する日本社会・文化教育のあり方に関するセミナーを開催し、対日理解促進に向けた議論を深めた。

NCSS年次総会は、11月17～18日にサンフランシスコにおいて開催され、北米の中高社会科教員約5千名が参加した。

セミナーは、全米日米協会連合会との協力により、年次総会のプログラムの1つとして開催されたもの。パネリストとして、過去に同センターの招聘事業に参加したデレク・フリーリング教諭（2015年、ミズーリ州ラファイエット高校）、スザンナ・ピアーズ教諭（2011年、テキサス州ウェストレイク高校）らが登壇、自身の訪日で得た知見や、実際の授業で日本を紹介した際の生徒たちの反応などを紹介した。

同センターの招聘事業に参加した教員は、帰国後、日本での体験を授業等で積極的に活用している。今年プログラムに参加したカナダのピットメドウズ・セカンダリースクールのサラ・ヴァンナイ教諭も、「交通インフラの整備から比較した東京の発展とバンクーバーの課題」と題した特別授業を計画している。



講演するフリーリング教諭（左）

以 上